馬橋みーつけた

顔より大きい晩白柚（ばんぺいゆ）

塩野　さだ子

新緑の季節 ― クリスタルな芳香が大気を染めています。誰もが振りかえる白い花の匂い。それは晩白柚（ばんぺいゆ）の花たち。

祭り囃子が聞こえる秋 ― 花たちは人の顔より大きい黄金色の果実を実らせます。

高円寺南三丁目（三地区）の篠原宏さん宅で見つけた晩白柚は、まだ深い緑色ですが、見上げるとつい歓声を上げてしまいます。

晩白柚は大正八年、熱帯植物の研究をしていた一人の研究者により、サイゴン植物園から台湾へ、そして昭和十年、鹿児島県果樹試験場を経て熊本試験場に導入されました。

果樹園のオーナー古田直一が昭和二十七年、苗木十本から取り組み二～三個の実がついたのは四年目のことでした。

晩白柚はザボンの一種で、直径二十から二十五㎝にもなり柑橘類の中では最大級。熊本県八代市の特産品。

晩白柚の名前は、味や香りが台湾在来の麻豆白柚（まとうぺいゆ）に似ていて熟期が遅いところから晩白柚と名づけられたと言われています。

篠原さんは「平成二年、熊本県八代市出身で浦安市在住の友人より一m程の苗木を贈られました。結実してもピンポン玉ぐらいの大きさで落ちてしまいます。やっと昨年受粉を手伝い、三個が実り感動しました。一個は祭礼の時、神酒所に奉納しましたよ。食べてみましたら酢っぱかったですね。」と話しています。

同年友人宅でも周囲六〇㎝の実を三個つけて話題となり、読売新聞紙面を賑わしたそうな。

晩白柚は果実の大きさもさることながら、花の香りに魅了されます。若き日に出会った香水に酷似しているせいでしょうか。

誰もが振りかえる花の匂い。そして人は、こう言います。「来年咲いたら教えてね」と。

馬橋稲荷神社 本祭り

馬橋稲荷神社は、今年は四年に一度の本社大神輿が出る年。

この神輿は大正十年に開かれた上野平和博覧会に出展された神輿です。

かつぎ手延べ七〇〇人、旧馬橋地区最大のお祭りです。

当時の神輿名工秋山三五郎氏の作。大変見事な細工ものです。

また、大正十二年八月二十九日に、この馬橋に運ばれ関東大震災の難を逃れたことから『難除けの神輿』とも呼ばれています。

神輿は神様を乗せて家の側までやってきます。お賽銭をあげて手を合わせ、一家の幸せを願いましょう。

担ぎ手への声援もね！

例大祭　九月十一日　午前十時

神幸祭　九月十二日（雨天中止）

宮出し　午前八時三〇分

宮入り　午後六時三〇分頃

馬橋稲荷神社（阿佐谷南二―四―四）

☎〇三―三三一一―八五八八